

No.5 ジャケットの効用？(IV)

これまで数回にわたって趣くまにジャケットの紹介をさせていただきましたが、ひとまずこの辺りで一区切りつけたいと思います。

とは言え、この種の気楽な書きなぐり文章に仰々しい結論をこじつけるのはいささか無粋な話です。最初からそのことを見越して「ジャケットの効用」にクエスチョンを付けておいたのだ、などと言ってしまうと、話が出来すぎでしょうか。

— 去年の夏、パスチューの裏通りのレコード店で、ジャケットのイラストが気に入る長年探していた、コラ・ヴォケールのPathéデビュー盤を見つけ、それを店頭に飾っていたときのこと。それに目を留めたある人に、そのイラストがペイネのものであること、またフルトヴェングラーにもペイネのイラストのものがあることなどを教えていただきました。

ようやく探し出したフルトヴェングラーの田園交響曲のフランス盤のイラストは、フルトヴェングラーのイメージとはおよそ

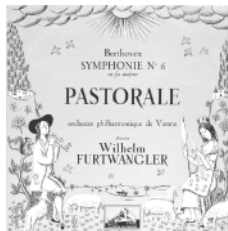
かけ離れたものでしたが「田園の交響楽」をそのまま絵にしたような素晴らしいイラストでした。

ペイネについては「恋人たち」の作者である、という程度の認識しか持っていなかった私でしたが、この一件によるペイネの再発見こそ、最近の私にとってのジャケットの効用であったようです。



個々のデザインの好き嫌いはともかくとして、かつてのLPレコードの黎明、発展期には、何かしらエスプリを感じさせるジャケットが存在したことは誰しもが認めるところでしょう。

いささか大げさかもしれませんが、かつて「LPレコード文化」とでもいうべきものが存在し、ジャケットデザインはその重要な構成要素であったと考えます。



おそらく、往時のレコード製作に携わった人たちの「レコード」の概念では、ジャケットは決して取るに足らぬものでは無かったのでしょう。

しかし、それはSP時代を引き継いだLPレコードという商品が、大量生産、大量消費のコマーシャルイズムの渦の中へと巻き込まれてゆく寸前の、ほんの束の間の出来事であったように思えてなりません。(K)

当店では、主にクラシックのLPレコード、SPレコードとクラシック音楽に関する輸入古書、国内古書を扱っています。

レコードは、50年代から60年代初期にプレスされたモノラル期のLP、および、器楽曲を含めた室内楽曲と歌曲のレコードを中心に品揃えしております。

また、探求レコード、探求書も出来る限り探そうお手伝いをさせていただきますと考えております。

CLASSICUS

antique records

33 & 78 rpm

antique books

101-0051 東京都千代田区神田神保町1-64 神保町ビル1F
PHONE/FAX 03-3294-6077 OPEN 13:00~20:00 日月祝休
info@classicus.jp www.classicus.jp